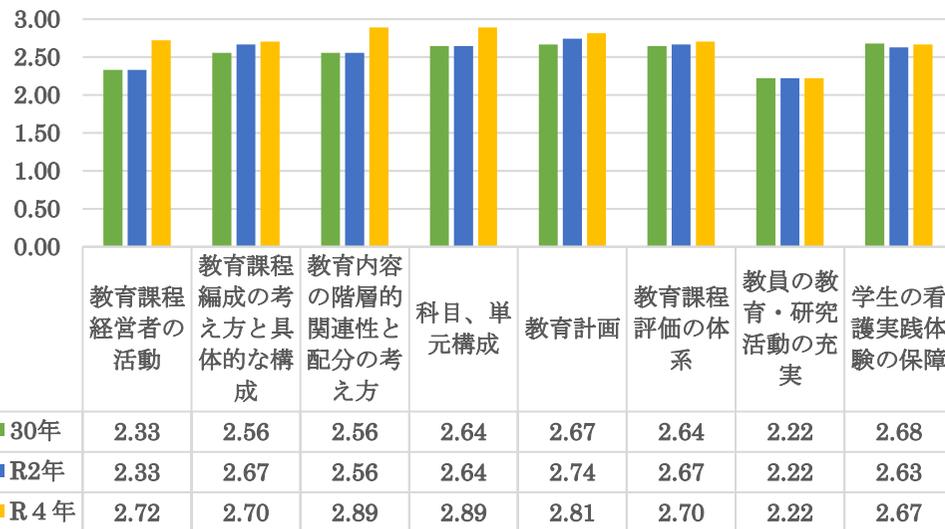
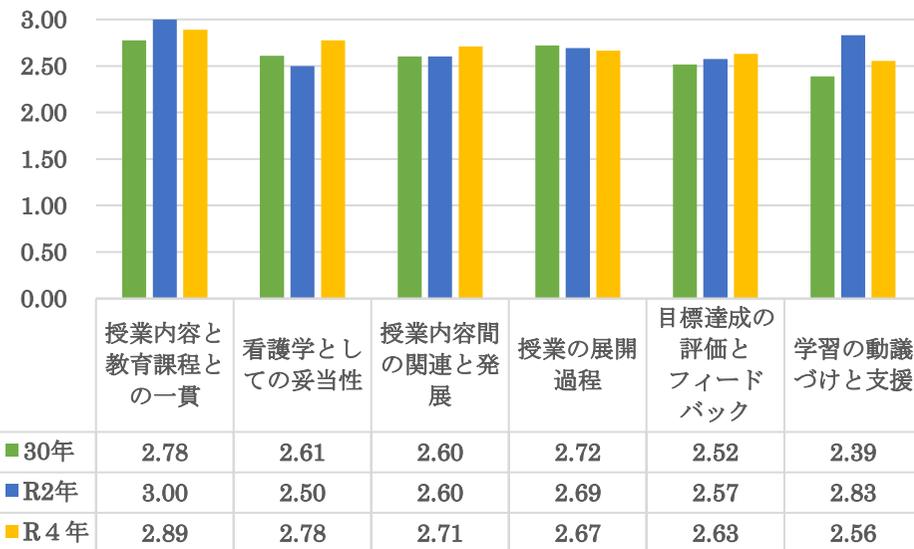


結果		分析		学校関係者評価																													
<h3>I 教育理念・教育目的</h3> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>法的整合性と独自性</th> <th>教育理念・教育目的の意義と周知</th> <th>看護専門職についての考え方</th> <th>看護教育についての考え方</th> <th>学習・教育観と学生観</th> <th>教育理念・教育目的の評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>■30年</td> <td>2.67</td> <td>2.50</td> <td>2.37</td> <td>2.39</td> <td>2.78</td> <td>2.67</td> </tr> <tr> <td>■R2年</td> <td>2.89</td> <td>2.39</td> <td>2.41</td> <td>2.44</td> <td>2.67</td> <td>2.67</td> </tr> <tr> <td>■R4年</td> <td>3.00</td> <td>2.67</td> <td>2.74</td> <td>2.61</td> <td>2.89</td> <td>2.78</td> </tr> </tbody> </table>			法的整合性と独自性	教育理念・教育目的の意義と周知	看護専門職についての考え方	看護教育についての考え方	学習・教育観と学生観	教育理念・教育目的の評価	■30年	2.67	2.50	2.37	2.39	2.78	2.67	■R2年	2.89	2.39	2.41	2.44	2.67	2.67	■R4年	3.00	2.67	2.74	2.61	2.89	2.78	<p>I 教育理念・教育目的 6項目 平均点 2.77 (2.55)</p> <p>すべての項目で前回より上昇し、平均点 2.6 (87%) 以上の点数となっている。 カリキュラム改正に伴い、カリキュラム評価を行い、教育計画構築に向け、教員間で討議・検討したことが肯定的評価につながった。 入学時、教育理念・目的について説明しているが、各学年においても、年度初めに教育理念・教育目的を周知し学生が意識していけるように取り組む。</p> <p>II 教育目標 5項目 平均点 2.89 (2.57)</p> <p>前回と比較するとすべての項目が上昇しており、高い評価である。 カリキュラム改正に伴い、カリキュラム評価を行い、教育計画構築に向け、教員間で討議・検討したことが肯定的評価につながった。 入学時、教育理念・目的について説明しているが、各学年においても、年度初めに教育理念・教育目的を周知し学生が意識していけるように取り組む。</p> <p>I 教育理念・教育目的、II 教育目標は学生にとって学習の指針になることから、評価に当たっては卒業時における学生の達成状況が指針となる。 年度末に、厚労省の示す「看護師教育の技術項目と卒業時の到達度」「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」のアンケート調査を継続し評価に生かしていく。 また、カリキュラム改正により3つのポリシーを策定しており、今後は、ディプロマポリシー(卒業認定要件、卒業時の能力)を明示して、学生自ら卒業生像に向かっていけるよう教育活動に取り入れていく</p>		<p>I 教育理念・教育目的 II 教育目標</p> <p>I IIともに、前回より上昇していることと、どれも高い評価であり、素晴らしいと思います。</p> <p>前回より上昇しており、教員間の意見交換等が発言しやすい環境であることが感じられました。 今後も学生自らが目指す卒業生像に向かえるように、取り組んでください。</p>	
	法的整合性と独自性	教育理念・教育目的の意義と周知	看護専門職についての考え方	看護教育についての考え方	学習・教育観と学生観	教育理念・教育目的の評価																											
■30年	2.67	2.50	2.37	2.39	2.78	2.67																											
■R2年	2.89	2.39	2.41	2.44	2.67	2.67																											
■R4年	3.00	2.67	2.74	2.61	2.89	2.78																											
<h3>II 教育目標</h3> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>教育理念・教育目的との一貫性</th> <th>目標内容の側面と到達レベルの側面</th> <th>設定意図とその明確性、実現可能性</th> <th>教育目標の評価</th> <th>継続教育との関連</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>■30年</td> <td>2.89</td> <td>2.67</td> <td>2.39</td> <td>2.67</td> <td>2.67</td> </tr> <tr> <td>■R2年</td> <td>2.89</td> <td>2.61</td> <td>2.33</td> <td>2.67</td> <td>2.56</td> </tr> <tr> <td>■R4年</td> <td>3.00</td> <td>2.94</td> <td>2.83</td> <td>2.89</td> <td>2.78</td> </tr> </tbody> </table>			教育理念・教育目的との一貫性	目標内容の側面と到達レベルの側面	設定意図とその明確性、実現可能性	教育目標の評価	継続教育との関連	■30年	2.89	2.67	2.39	2.67	2.67	■R2年	2.89	2.61	2.33	2.67	2.56	■R4年	3.00	2.94	2.83	2.89	2.78								
	教育理念・教育目的との一貫性	目標内容の側面と到達レベルの側面	設定意図とその明確性、実現可能性	教育目標の評価	継続教育との関連																												
■30年	2.89	2.67	2.39	2.67	2.67																												
■R2年	2.89	2.61	2.33	2.67	2.56																												
■R4年	3.00	2.94	2.83	2.89	2.78																												

Ⅲ教育課程経営



Ⅳ教授・学習・評価過程



Ⅲ教育課程経営 7項目 平均点 2.67 (2.50)

8項目中、平均点以下の項目は2項目のみであった。評価が低い項目「教員の教育・研究活動の充実」は前回と同じ点数である。学生の理解を得る機会として、実習施設から講義を担当する非常勤講師として依頼をするなど、教員の担当科目と時間数の配分を調整しているが、学習支援や生活指導等の支援が必要な学生も多くなってきており業務過多になってきていると推測する。今後、教員間の業務調整、教務事務との業務整理を継続して行う。

「学生の看護実践体験の保証」については平均点 0.04 上昇しているが、前回より低下している項目として、臨地実習施設の臨床指導者と教員の役割の明確化や協働体制に関する項目であった。新型コロナウイルス感染症による臨地実習施設内の医療体制のひっ迫による影響も一要因として考えられるが、今後はより綿密に情報共有しながら地域に根差した教育活動を目指していく。

Ⅳ教授・学習・評価過程 6項目 平均点 2.65 (2.65)

6項目中5項目において2.6以上の高評価である。しかし、前回大幅に上昇した「学習の動機づけと支援」が低下している。すべての科目にシラバスを整備しているが、学生の学習支援への活用には至っていないため、早急に検討し改善する必要がある。

授業計画立案では、授業内容に応じた授業形態の選択・指導技術の工夫・教材教具の活用をしながら実施しているが、教員間の協力体制が明確ではなく、個々の教員の裁量に任せられている状況にある。学生に効果的な教育指導をおこなえるようなシステムを検討する。

教員自身の成長や育成のため、日々の教育活動について授業案や教育方法の在り方について情報交換や検討をしあう機会を定期的に設定することが必要である。また、専門分野以外の科目を担当することは自らの成長に有効であると捉え、教員同士の協力体制の構築に努めていく。教育目標の達成の把握として、全ての科目において授業評価を取り入れたが、分析しフィードバックするまでには至っていない。状況の共有を行い、課題を明確にし学生に還元していくことが必要である。

Ⅲ教育課程経営

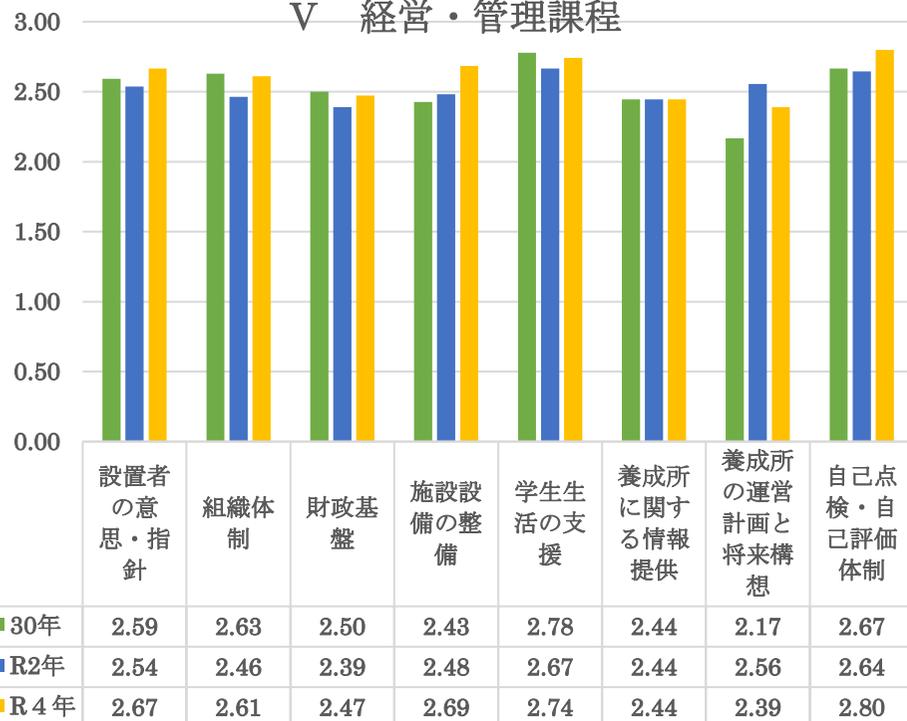
平成30年と令和2年で変化がなかった項目の3つが令和4年では上昇がみられており、良いと思います。しかし、「教員の教育・研究活動の充実」では同じ点数が続いており、今後の課題であると思います。日々忙しい業務の中自身の成長のための時間を確保するのはとても大変だと思いますが、それぞれの教員の成長のために、教員間での協力が大切になると思います。

Ⅳ教授・学習・評価過程

「学習の動機づけと支援」の低下がみられ手ており、学力の低い学生も増えてきているため、日々の学習が定着するような支援がより必要となると思います。

現在、空知管内のどこの病院も人員不足が目立ち臨地実習での共同体制が難しくなっています。今後も地域に根差した看護師育成のために尽力してください。

V 経営・管理課程



V 経営・管理課程 8項目 平均点 2.62 (2.52)

8項目中6項目において、前回より平均点が上昇している。
新型コロナウイルス感染症対策でのガイドラインがない中での意思決定に曖昧さや迅速な判断ができなかったことは管理者の課題として残るが、常に会議や教員間で協議・検討するなど教員の意見や考え方を反映するよう努めたことが評価に反映していると推測する。

「施設設備の整備」では新校舎移転に伴い、教材を含め学習環境が整ったことが高評価となった。
「養成所の運営計画と将来構想」は前回大幅に上昇したが、0.17低下し平均点以下となった。
新校舎移転となり、カリキュラム改正による教育計画の構築を基盤として、養成所としての将来構想を考えていく必要がある。

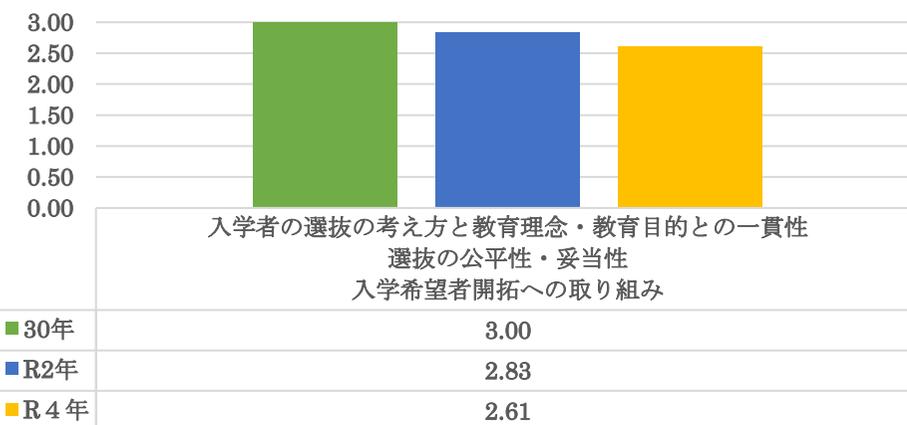
「養成所に関する情報提供」では、広報活動として、新校舎になったことから、オープンキャンパスを実施した。高校への募集要項発送、個別説明会、業者主催の進学説明会などにも継続して出向いている。
年々受験生の減少が認められており、受験生の確保の観点からも、広報活動を充実させ継続していく。

V 経営・管理課程

新校舎となり、以前より環境が整い、学生が学習しやすい環境になったと思います。
学院のことを知ってもらうためにも広報活動は大切だと思います。

積極的に学生確保に向けての取り組みを実践されていると思います。
オープンキャンパスを行い、受験者数に変化があるのか、数年後に分析していくとよいと思います。

VI 入学



VI 入学 平均点 2.61 (2.83)

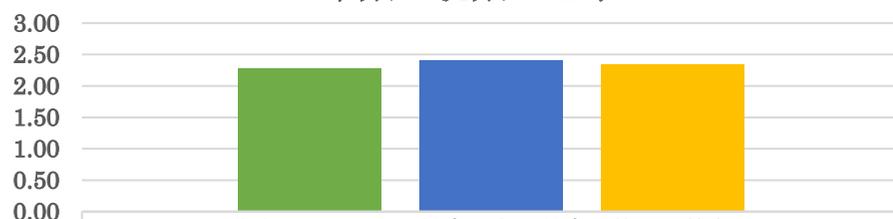
入学試験委員会を中心に入学試験に関する公平性を維持し、入試問題の作成、入学試験の実施、入学者の選抜を実施している。今後は、検討したアドミッションポリシーを基本として、入学者の選抜の考え方と教育理念・目的との一貫性をもち選抜方法の妥当性を考え、受験生の維持への取り組みを行っていく必要がある。

VI 入学

入学者の確保をしながらより良い学生に入学してもらえるように今後も取り組みを行っていく必要があると思います。

入学生の選抜は今後も公平性を維持していけるように尽力してください。

Ⅶ 卒業・就業・進学



進路選択の状況と教育理念・教育目的との整合性

卒業時の看護実践能力および卒業後の活動状況の評価

■ 30年	2.28
■ R2年	2.42
■ R4年	2.35

Ⅷ 地域社会/国際交流



地域社会

国際交流

■ 30年	2.50	1.86
■ R2年	2.48	1.69
■ R4年	2.61	1.97

Ⅸ 研究



教員の研究的姿勢の涵養

教員の研究活動の保証と評価

■ 30年	1.67
■ R2年	1.56
■ R4年	1.96

Ⅶ 卒業・就職・進学 平均点 2.35 (2.42)

卒業時に、厚労省の示す「看護師教育の技術項目と卒業時の到達度」「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」の調査を毎年実施、分析しているが、卒業後の活動状況の把握は計画的に行えていない現状がある。卒業後の看護実践活動の状況調査を実施するとともに、精神的支援への活用方法を模索していく。

Ⅷ 地域社会/国際交流 平均点 2.36 (2.17)

地域活動については感染対策のため地域との交流が希薄となっている。今後地域のニーズを把握し、感染状況に合わせながら、行事等の参加など地域に根ざした教育活動を目指す。

国際交流に関しては、地域の特性もあり十分な教育の機会が提供できていない現状であった。R5より、JICA 北海道より非常勤講師を派遣してもらう予定である。

Ⅸ 研究 平均点 1.96 (1.56)

9カテゴリーで最下位である。

日々の教育の中で研究的視野から取り組み、実践・評価のプロセスを教員個々で取り組んでいる状況である。毎年、研修会への参加を計画的に実施しているが、実務が優先されてしまい研究活動に取り組む時間的余裕がないため低評価であると推測する。今後、教員間の協力体制、業務改善等も踏まえながら、授業研究や教育活動の取り組みを計画的に行う必要がある。

Ⅶ 卒業・就職・進学

短い実習期間の中で、看護実践能力を高めることは難しいと感じますが、だからこそ、少しでも見学や実施できるような支援を教員や指導者で協力しながら行っていく必要があると思います。

卒業後の看護実践活動の状況調査は大変だと思います。今後、計画的に進めていけるとよいと思います。

Ⅷ 地域社会/国際交流

コロナの状況もあり、地域との交流は難しい状況にあったと思います。今後、少しずつ地域の人たちにも学院のことを知ってもらえるように活動できるとよいと思います。

JICA 北海道より非常勤講師を派遣してもらうことは、学生にとっても貴重な体験になると思うので、とても素晴らしいと思いました。

Ⅸ 研究

教員全体で協力的に取り組んでいく必要があることだと思います。そして、ひとりの負担が大きくなりやすいよう、取り組み方法や協力の仕方などの検討が必要になると思います。

日々多忙な業務の中研究活動に取り組むことは、非常に難しい課題だと思います。